

四 11月斗争の基本戦略

(1)

11月10日からの初年度階級斗争の開始としてとらえてきた11月の闘いより明確に向られる状況に入る。

11月の自衛隊内兵式、11月の自衛隊部内パレードへの田に変更しをステツプとして、11月13日の総評政治ストと11月14日の佐下訪米阻止斗争は、10/21状況より深化した形で向野にされざるをえない。街頭政治斗争は佐下訪米阻止との関係で向野にされた状況は13日の政治ストにおいてより深刻に向われざるをえない。13日のストは政治ストとして成立するにめには、当然凶劣のストは軸となりなければならぬ。しかも、労組組合運動にとって凶劣、凶劣の合理化向野は中心の斗争課題である。11月のこのような反自斗争をスローカンとして11月に入るのだから、13日のストは政治的解決の中では決定的焦点であり、凶家権力との衝突もなく、さうなりと行われるような状況にはない。

すでに凶劣、凶劣の反自斗争においては常に、凶家権力の介入の存在している。11月17日に行われるならば、凶家権力の介入は10/21キボの向野として考慮する。このため13日のストに対する全戦線的関係もまた、69年庄保時におけるような、支援斗争のようにはいかならない。12日夜からの11月の闘いは、10/21の闘いの関係より深刻に向われるものとして存在しているのである。

このことを考へるとき、自衛隊斗争をステツプとして11月過程の中で、11月斗争においては、先進部分と大衆との結合を11月の当日において自然発生的に増進へ中核のようにするのはなく、全共斗、反戦武装行動隊の末端まで五人組とオの意識的組織形態を通じて用意しつ、11月斗争の政治内容を大衆的に明らかにしなければならぬ。

自衛隊斗争という街頭斗争において革命的左翼の存在ぶりを暴徒完全ちん圧キャンペーンを打ちぬぶりつ、自主防衛路線へ痛打をあげせる11月として遂行しつ、部隊の再編、整備を行わなくてはならぬ。

その上で13日には生産的対政治ストを10/21において行うとしつ、さきになつた畑卓取場で断片、民間の押さぬぶつて成功させつ、民間のストはさおろし策動へ凶家権力の圧力の増大ならして必然であるゆえに可能性が大いさを粉砕して11月

を進めなくてはならない。その13日の闘いは、とくに凶鉄においては、その労働者のみによつて行いうるような性格を口でさし以上、全戦線的力量で対内的に拮据することなくしては不可能である。13日こそわれわれの理想としてきたマツドストという性格へ形態を街頭の向野を口で口を待つことなしには凶家権力の押しに敗れるであろう。以上の11月の基本戦略として10月14日開始される訪米阻止斗争は行われるのである。

(2)

具体的組織体制は11月10日以前より、11月斗争へのわれわれの基本組織は11月のようなるものである。

11月斗争は初年度階級斗争の初めとして最も階級関係の下で展開され、大衆とわれわれの政治指導部の関係をくり返すことになり、さうして連帯的の大衆オルタを形成して、また他派派の加闘を合めた政治関係の中を11月13日11月17日ならぬ日、その上には、さうして11月13日11月17日ならぬ一切の期待を持たず、われわれのみの政治力と最大限投入しなければならぬ。絶えず、自然成長主義の行効は、われわれの組織的指導と利用する。とくに全共斗への大衆への全面的に回復する凶劣を用意しなければならぬ。

街頭斗争における組織的指導において、組織的を一切信用せず、主体的責任において遂行するものとすに11月13日はさきない。